**第５学年　道徳科学習指導案**

（所属）

（学籍番号）　（名前）

1. **単元名**

その思いを受け継いで

1. **主題名**

D-(19)「生命が多くの生命のつながりの中にある

かけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」

1. **主題設定について**
2. 児童観

本単元では、小学校第5学年、すなわち10歳から11歳の児童を対象として、授業を行う。

ピアジェの認知発達段階説では、児童は7歳から11歳の時期において具体的操作期の段階に移行し、自己中心性の弱化ないしは自己中心性からの脱却が起こると考えられている。

また小学校中学年・高学年ごろになると、特に男子児童については、排他性・閉鎖性の高いギャング・グループを形成するようになり、自分たちのルールや秘密の遊び場を作ったりする一方で、他の集団やルール・規則に対する反抗的な態度や、「死ね」といった乱暴な言葉遣いが見られるようになると記している。

1. 教材観

本教材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編において掲げられている「D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること」の中で、小学校5・6年生指導内容項目に挙げられている「(19) 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」に該当する、「生命の尊さ」に関連した内容である。

本教材『その思いを受け継いで』では、人生の最期を迎えようとしている祖父が、死期が近づいてもなお、以前と変わらず「ぼく」に愛情を伝えようとしている姿、またその姿を通じて、大切な祖父の死に直面した悲しみを乗り越え、祖父の思いを受け継いで前を向いて生きていこうとする「ぼく」の姿が描かれている。

本単元では、主に人間の生命の尊さについて考えを深めていくが、人間だけではなく、生きているもの全ての生命についても大切に考えなければならない。そのためには、概念的な言葉での理解だけではなく、実際の生活場面や実体験と関連付けることによって、「生きること」を自分事として捉えさせることが求められる。また他者との対話を通して、他者が考えていることや感じていることに耳を傾け、自身の持っている思想や意見と照らし合わせて考えさせるようにする。

1. 指導観

本教材及び本単元を通して、他人事を自分事として捉え、生きているということが当たり前ではない、尊いものであるということを実感するとともに、「『生と死』とはどういうことか」などの発問を通して、自身及び他者の生命を尊重しようとする心を養うことを目指す。

指導にあたっては、導入で「身近な人の『死』を経験したことがあるか」および「『死』を身近なものだと思うか」というアンケートを取ることによって、児童がどれだけ死を身近に感じているか、可視化する。また、展開では対話を中心としてお互いの思想や意見に触れることで、相互なフィードバックを図りつつも、「生きる」ことについて考えを深めさせる。

1. **本時の学習指導**
2. ねらい

「生きている」ということが当たり前ではなく、尊いものであるということを実感するとともに、自身及び他者の生命を尊重しようとする心を養う。

1. 展開（45分）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **展開** | **◯学習活動** | **●指導上の留意点** | **時間** |
| **導入** | 1. **本時のめあてを確認する。**  * 児童をZoomに参加させ、円滑にリンクを共有できるようにする。 * 「身近な人の『死』を経験したことはあるか」・「『死』を身近なものだと思うか」について、アンケートを取る。 * 「身近な人の『死』を経験したことはあるか」についてのアンケートから、遭遇したときの気持ちを想像する。 * 本時のめあてを確認する。 | * 答えたくない児童もいることを念頭に置いて、一人一人の考えを尊重する。 * ICT教材（Zoom + Googleフォーム）を活用して、全体に迅速に共有できるようにする。 * 一人一人の個性や発達段階も踏まえた上で、ネガティブなイメージだけではなく、「わからない」という選択肢も考慮する。   「生きる」とはどういうことか考えてみよう | **0:06**  0:03  0:01  0:01  0:01 |
| **展開** | 1. **「その思いを受け継いで」を読んで、考えたこと・感じたことについて話し合う。**  * 「その思いを受け継いで」を朗読する。 * 【質問①】「じいちゃん」があと3ヶ月の命だと聞いたとき、「ぼく」はどんな気持ちになったでしょうか。 * 【質問②】「ぼく」はなぜ「じいちゃん」が入院している病院に行ったのでしょうか。 * 【質問③】「じいちゃん」はどんな気持ちで「ぼく」に手紙を書いたのでしょうか。 * 【質問④】のし袋に書いてあった「じいちゃん」の字を見て、「ぼく」はどう感じたのでしょうか。 | * 命に関わる題材として、より自分事として捉えてもらいたいため、没頭してもらうために教師が朗読を行う。 * 近くの人と2～4人で1組になって、話し合いをさせる。回答シートに記入してもらいながら、口頭で数人指名する。「ぼく」が抱いている不安に共感させる。 * 「ぼく」が抱いている少しでも一緒にいたいという気持ちに共感させる。 * 「じいちゃん」の視点から考えさせることによって、「ぼく」の周りには「ぼく」と関わってくれる他者がいることに気づかせる。 * のし袋を通じて「じいちゃん」の愛情が大いなるものであったことに気づき、「じいちゃん」の強い想いに触れることで、思いを受け継ごうとする「ぼく」の意図に気づかせる。 | **0:19**  0:05  0:03  0:03  0:03  0:05 |
| 1. **自分の経験から、考えたこと・感じたことについて話し合う。**  * 【質問⑤】自分が「あと3ヶ月しか生きられない」と言われたら、どう思いますか。また、何をしますか。 * 【質問⑥】自分の大切な人（親や兄弟、身近な人など）が「あと3ヶ月しか生きられない」と言われたら、どう思いますか。また、何をしますか。 * 【質問⑦】「自分」と「自分の大切な人」で、何か違いはありましたか。 | * 教材を身近な場面に引き寄せることによって、他人事を自分事として捉え、「生と死」について考える機会を持たせる。 * 自分ではなく自分の大切な人を考えることで、身近な人を他者の視点から見つめさせ、一人一人が色んな考え方を持っているということに気づかせる。 * 自分と他者が別の視点を持っていることに気づかせ、どのような違いがあるのか言語化させる。 | **0:12**  0:04  0:04  0:04 |
| **終末** | 1. **「生きる」とはどういうことかについて考える。**  * 今日のめあてを改めて確認し、「生きるとはどういうことか」について考え、自分の言葉で回答シートにまとめる。 * 個々の回答シートを全体で共有し、近くの人とそれぞれの考えについて話し合う。 | * 今日のめあてを達成することができたかどうか、回答シートにアウトプットすることで確認する。 * お互いの考えを共有することによって、相互のフィードバックを図る。 | **0:08**  0:05  0:03 |

**授業で印象に残ったことやテーマ・授業実践で心掛けたいこと**

私が「道徳教育論」の講義で印象に残ったこととして、講義を受けることによって、自分自身の中にある「道徳」に対するイメージが、どんどん大きく変わっていったということが挙げられる。

毎回の授業課題やコメントペーパーからも分かる通り、私は「道徳」というものに対して、講義当初から非常に懐疑的な姿勢を取り続けた。その理由として、小学生時代に受けてきた道徳の授業が、とても綺麗事ばかりのものであったということ、また私自身がミッション・スクールの中学校・高等学校に通っていたために、「道徳」の単位を「聖書」の単位へと置き換えており、結果として道徳教育を受ける機会もなく、道徳教育に対する印象や価値観を更新することができなかったということが挙げられ、さらには、私が小学校に在籍していたのは9年前のことであるため、小学生6年生時点で平成25年、つまり「特別の教科　道徳」が制定されている現行の小学校学習指導要領の告示（平成29年）以前のことであるということも、理由の一つになりうるのではないかと考えられる。

先述の「特別の教科　道徳」の制定については、平成29年以前の小学校学習指導要領における道徳は、「領域」として扱われていたため、総合的な学習の時間や特別活動と同様に、カリキュラムとしての授業数が明記されておらず、また検定教科書や評価が存在しなかった。しかし、平成29年以降については「特別の教科」として扱われるようになったため、カリキュラムや検定教科書、評価基準などについても定められるようになった。文部科学省（2008，2017）によると、小学校学習指導要領（平成29年告示）第3章「特別な教科　道徳」第3「指導計画の作成と内容の取扱い」3において、教材に関する留意事項が明確に記されているが、一方で小学校学習指導要領（平成20年告示）第3章「道徳」第3「指導計画の作成と内容の取扱い」では、使用教材に関する明確な規定が存在しない。内容についての規定はあるものの、教材に関する統一された基準が存在しないということは、地域や学校によって指導に用いる教材が異なる可能性があるということである。しかしながら、平成29年以降には検定教科書が用いられるようになったことで、日本全国でほぼ同内容の授業を受けることができるようになった。このことからも、平成29年以前とそれ以降では、道徳教育の内容に変化が生じている可能性があることが分かる。

「私自身が受けてきた道徳教育と、現在の小学生・中学生が受けている道徳教育とでは、その内容に変化が起こっている」という可能性については、教員を志望せず本講義を受講することがなければ、一生考えることがなかっただろうと思われる。今まで「道徳」を重要な領域・教科であるとは捉えていなかったため、こうして講義を通して考えることで、新たに得た発見をもとにして、自己内省することができた。私の中にあった「道徳」というイメージが、自己内省を通して、大きく変わっていったのである。私自身の例のように、道徳という教科に対して、一人一人がそれぞれ肯定的・否定的な意見を持っていると思われるが、道徳教育に関する自分なりの考えを持っておくためにも、まずは道徳という科目が、どのような内容を、どのような教材を用いて、どのぐらいの規模で、どのぐらいの時間に渡って教えているのかなど、きちんと熟知しておくことが重要である。

また授業実践で心掛けたいことについては、今回の模擬授業で扱った「生と死」というテーマに関連して、やはり「死」については慎重に取り扱いたい。「死」を経験していない児童がいれば、反対に児童にとって親しい者が「死」を経験している、ないしは児童自身が「死」を経験している場合も考えられる。児童一人一人が「死」に対してどう捉えているのか、しっかりと授業実施前のアンケート等を通して児童観を明らかにすることが、本当に重要であると改めて感じることができた。（1605字）

【参考文献】

文部科学省（2008）．『小学校学習指導要領（平成20年告示）』 Retrieved from https://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/（2022年8月1日閲覧）

文部科学省（2017）．『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 Retrieved from https://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm，https://www.mext.go.jp/content/1413522\_001.pdf（2022年8月1日閲覧）